

耳の不自由な人

『耳の不自由な人は、そのことが外見からはわかりません。』

一番困るのは人とのコミュニケーション。手話ができなくても“ 会話をしよう ”という気持ちさえあればいろいろな方法で情報を伝える事ができます。

「実際には、どのように手助けをすれば良いのか」 判らない方も多いかと思いますのでよくあるシーン別の接し方を、いくつかご紹介します。

筆談

筆談は手のひらや紙に文字を書いて伝え合う方法です。

口話(読話)

相手の口の動きを読み取ることで伝え合う方法です。口の動きが判るよう、正面を向いて大きく口をあけ、はっきり話してください。また、相手の目を見て内容がきちんと伝わっているか、確認しながら話しましょう。わかりにくい時は筆談も交えると良いでしょう。

手話

手話は目で見てわかる視覚言語で、もっとも有効な会話方法と言えます。しかし中途失聴の方やお年寄りなどは、手話ができない方が多いので、そのような時は、筆談や口話、身振りなどの動作を交えながら会話をしましょう。

電車やバスの中で

次に降りる駅やバス停及び料金が電光掲示されていない乗り物もあります。こんなときは気軽に教えてあげましょう。

電話を頼まれたとき

耳の不自由な人が電話をしようとしていた場合、身近にいる人に電話の代理をお願いする事になります。伝えたい要件をメモに書いてもらい、電話の相手の返事をメモに書いて伝えてください。また、電話を切るときは本人に確認してから切りましょう。

病院や銀行などの窓口で

耳の不自由な人は、病院や銀行の窓口で、自分の名前を呼ばれても判らないことがあります。そんなときは手招きしたり、肩をたたいたりして知らせあげましょう。

コラム①「公衆FAX」

公衆電話と連動して使えるFAXが設置されている事もあります。

コラム②「補聴援助装置」

講演会や集会の場でマイクを使用する場合は、補聴援助装置を使うと周囲の騒音などに影響されず、マイクを通じた音声を明瞭に聞き取る事ができます。受信には誘導コイル付補聴器又は専用の受信機が必要です。